

末寺造營より十年許り後也。實如上人御代。」と記したのは、今同寺に藏する法便方身尊像實如の裏書といふものに、『文龜元年壬午六月廿八日願主釋祐乘』とあるものから生まれたか、或はかの記事からこの裏書が起つたかは別問題として、兎に角一致してゐる。併し谷下一夢氏著『眞宗史の諸研究』(昭和十六年七月出版)に據ると、天文日記十五年十月廿九日の條に、『加州金澤坊舎へ本尊云々悉道具下之。一、爲堂崇廣濟寺慶信下之。』とある廣濟寺慶信は、廣濟寺祐乘及び慶恩寺慶信(寺傳慶心)二人の意で、前者は十六年十二月九日及び廿二年二月二日にムサ祐乘と見えるから、祐信の金澤御坊下向を文龜元年とし、示寂を大永五年とする舊説は信じ得ぬとしてゐる。因に言ふ。『眞宗史の諸研究』では、前記慶信を天文日記所載赤穂の慶信か又は丹下の慶心かであらうとしてゐるが、これは恐らく後者であらう。何故なら慶恩寺傳に寺祖慶心を大和小山の産とあるが、大和には小山がないから河内の誤と思はれ、若し河内小山とすれば丹下とは隣接の地であるからであり、隨つて天文日記十五年十月廿九日の條の慶信は慶心の誤記であらう。(以上は金澤御坊・慶恩寺・廣濟寺の各項印刷の際未だ考慮に上らなかつたから、こゝに之を補記する。)

**ユウシヨユウシユウロク** 有初有終錄 四冊。今枝直方編。今枝氏の世系、歴世の傳記、家傳の文書、及び直方の父近義が洛北高野村の廢院を再興したる蓮華寺の修營記、その他同寺に關する記録を集めたもの。延寶元季李冬仲旬隱士原瀧泉の序文を添へる。

**ユウシンサイニチロク** 又新齋日錄 十三卷。湯淺進良著。前田氏の事蹟及び超越能の奇事等の漫録である。湯淺氏は祖先道興以來世々文事を以て名を得たから、進良の日録も殊に珍らしい資料が多い。

**ユウゼン** 友禪 京の友禪染の祖。その墓跡が金澤上小川町龍國寺に存するといふことは、寶圓寺に依屋宗達之墓が発見せられたといひ出した後、大正九年一月寶圓寺の下寺である龍國寺にこの事あるに至つたものである。友禪が金澤に居たや否やすら確實ではない。この碑は坊主墓で、友禪齋自超上座とあるが、その友禪の二字に後に加刻せられた跡の見えるのみならず、寶曆八戊寅六月十七日の文字が微かに讀まれ、畫人若しくは染工が上座にまで昇つてゐたことも信じられぬ。同寺の過去帳にも、友禪齋自超上座太郎田屋月牌と載せられ、太郎田屋は古い染物屋ではあるが、それが十七日の條の最後に記されてゐるのである。又友禪に就いては、諸國俳士人名錄花の屑に『友禪、木町烏居キハ宮崎友次畫カキ元文元年六月八十三歳夜九ツ時』と記され、石碑の寶曆八年はその廿三年に當るから、太郎田屋が友禪の爲に追善碑を建てたのであると説く向もあるが、花の屑といふものがあるにしても、明治の俳人竹内更隣の書いたものといふから、どれ程の權威があるとも思はれず、殊に死去の時刻まで示されてゐるのは、微細に過ぎて偽作の疑が濃厚である。

笹川臨風は、供養塔が坊主墓である例のないことを指摘してゐる。

**ユウゼンアン** 祐善庵 羽咋郡二ツ屋に在つて、眞宗東派に屬する。

**ユウセンイン** 祐仙院 加賀藩主第六代前田吉徳の子暢姫即ち酒井忠宜夫人の法號。詳しくは祐仙院圓明保智大禪定尼。

**ユウセンジ** 涌泉寺 能美郡遊泉寺の西方梯川に臨む地にその寺址がある。源平盛衰記に『白山中宮の末寺に涌泉寺といふ寺あり。國司の廳より程近き所なり。』とある。又平家物語には、この涌泉寺のことを『國府の邊に鶴川と云山寺あり。』と記して鶴川寺としてゐる。蓋し今鶴川村に遊泉寺村の隣邑であるが、當時は凡べて鶴川村に屬し、その内寺院を中心とする地が分立して遊泉寺村になつたのであらう。又源平盛衰記に、『三月九日被下院宣云。加賀國溫河燒失事云々。』とある。溫河も鶴川寺の意である。長門本平家物語に、この寺を溫泉寺に作つたのは、涌泉寺を誤寫したか、白山五院の溫泉寺と混同したかである。白山記にも中宮八院の中に涌泉寺を擧げてゐる。郷村名義抄に、『往古祐泉寺といふ寺有之、村名を祐泉寺といふ。又湯泉寺とも遊泉寺とも文字替りたるよし傳言す。』とあるのは、いづれも類似の音または訓を假りにたに過ぎぬ。

**ユウセンジ** 遊泉寺 能美郡德橋郷に屬する部落。古へ涌泉寺があつたに因つて村名となつた。祐泉寺・湯泉寺の文字も借用せられたが、正保・寛文・貞享の高辻帳には遊泉寺村としてある。能美名蹟誌には、この村に中川主馬の屋敷跡があると記するが、時代は知れない。

**ユウセンジイシ** 遊泉寺石 能美郡遊泉寺に産する石材。石英粗面岩質凝灰岩で、淡青灰色の石基中に草色の砂礫を混じ、質粗粒で緻密である。

**ユウセンジドウザン** 遊泉寺銅山 能美郡遊泉寺の銅山は、舊記に、金平金山の頃堀田村の十村であつた半助之を採掘したが、盛況を呈することなく、四五十年にして止んだと記載してある。金平金山の頃といふは、安永・天明あたりであらう。後文政三年加賀藩之を復興し、安政二年六月は堀田の人田中三郎右衛門の經營に移し、文久三年九月重ねて藩有とした。

**ユウソン** 西尊 淨土宗の僧。心蓮社叶譽と號した。加賀の人。初め路白に師事して嗣法し、江戸淺草幡隨院に住し、後に京都光明寺に移り、貞享二年八月廿九日七十歳を以て寂した。著書に、三經略解・曼陀羅鈔等がある。

**ユウチユウカン** 挹注館 明治二年金澤城内會所跡に創設した學校である。是より先、道濟館に於いて英佛兩語學を授けたが、生徒の増加した爲、その英學生を割いて挹注館を置いたのである。しかし翌三年十一月又致遠館と合併して、中學東校となつたから、挹注館の存在は二年に滿たなかつた。本館の教師の主なるものは、舊幕臣長野桂次郎・瀨士柴木昌之進等で、綴字書・讀本・文典・地理・歴史・日本外史・十八史略等の英漢二科で、生徒は四五十人を數へた。

**ユウドウ** 勇道 ↓ソセンユウドウ 祖榮勇道。

**ユウドウ** 勇道 ↓ソセンユウドウ 祖榮勇道。